

令和8年度上大久保中学校だより

上中だより

第3号

令和8年6月1日(月)

学 校 教 育 目 標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

「鏡に映る私の姿は？」

上大久保中学校長 内 田 崇 史

試合前のアップを見るのが好きです。澁滞とした表情・掛け声、きびきびとした動作。今まで共に活動してきた仲間と大舞台に立つことのできる喜びと緊張。生徒一人ひとりの熱くて強い思いが詰まった様子を見てみると、清々しさが体中に染みわたります。

やっぱり試合は緊張の連続です。なかなか練習の成果を発揮したのびのびプレーができずに苦勞している様子が表情から伺えます。ついつい体の至る所に力が入ってしまいます。3年間の思い、仲間への感謝、仲間のために自分が何とかしたい、様々な思いが余計なプレッシャーとなって自分の肩にのしかかってくる。強い「思い」が応援している私達大人にも伝わり、こちらも一球一投足に力が入る。そんな中で選手たちは、今自分ができる精一杯の技を繰り出そうと必死に戦っています。また、監督やコーチのアドバイスが実に絶妙で、タイミングと内容が的確であり、その度に不安そうだった生徒達の顔が安堵と自信の表情に変わっていました。

5月30日(土)から、1週間にわたって行われている市学校総合体育大会での一幕です。各部とも熱戦が繰り広げられました。「ここで負けたら、この仲間・同じメンバーで戦えなくなる。仲間を信じて、仲間と協力して。ワンプレー・1秒も無駄にせず、自分のできることをやり切るぞ。」との思いが、どの部からもひしひしと伝わってきました。

生徒の皆さんのプレーから、仲間を思う気持ちやあきらめない心の強さを感じることができ、幸せな気分です。何よりも生徒達の必死な全力プレーは、私達大人に元気と勇気と活力を与えてくれます。私達大人は、生徒の皆さんから多くの得難いものをもらっています。ありがたい限りです。

先月下旬に、歴代の校長やPTA会長との会合が行われました。3年後の開校50周年記念式典に向けての話合いです。上大久保中が誕生して間もなく半世紀。今後、実行委員会を立ち上げ、後援会やPTA・地域の方々のご協力のもと、工夫を凝らした内容を検討していきます。しかし主役はあくまでも生徒です。上大久保中学生徒全員で50歳のバースデーをお祝いします。どんなことができるのか、大変楽しみです。

簡単に50周年と口に出してしまっていますが、50年前の先人の思いに心を馳せ、またその時その時の先輩方の自立した子どもに育てるという思いや使命感を想像すると、重みで胸が張り裂けそうになります。歴史と伝統が脈々と受け継がれ、今に至っています。

「歴史を知れば、日常が楽しくなる」という言葉を耳にしたことがあります。その土地にかつて存在していた建物や人間の営みを想像すると、見慣れた風景でも色鮮やかに見え、匂いまで感じ方が変わると言います。また文学者の小林秀雄氏によれば、ある講演で「あなたを産み育ててくれたのは保護者の方。保護者の長所も短所も、みんなあなたの中に流れている。そうすると、保護者の方を大事にすることは、あなた自身を大事にすることであり、自分自身を大事にすることは結果的に保護者を大事にすることになる。歴史だって同じです。日本の2千年以上の歴史は皆さんの体の中に流れている。歴史を知るとは自己を知ることにつながるのだ」と。

考えてみるとその通りで、日本の古典には「鏡もの」というものがあります。平安時代「大鏡」(おおかがみ)や鎌倉時代、源頼朝の活躍等を描いた「吾妻鑑」(あづまかがみ)。これらは歴史書です。この「吾妻鑑」は、鎌倉幕府が編纂した歴史書で、数年前のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で描かれ、源平合戦から鎌倉幕府の様子まで詳細に書かれています。このことから、日本人は古来、歴史を鏡だと思っていた感が伺えます。歴史を学べば本当の自分の姿が見えてくるのです。そういう意味で生き方の鑑として生徒達に、歴史や伝統、道徳観を伝えていく必要性を感じるこの頃です。